

老人ホーム開設、点字ブロック開発

# 事業家2人「役割」考えて

連続シンポジウム「慈愛

と福祉の先駆者たち」(山

陽放送学術文化財団主催、

岡山日蘭協会共催、山陽新

聞社など後援)の第7回「地

域共生社会を夢見た人々」

が11月27日、岡山市北区柳

町の山陽新聞社さん太ホー

ルで開かれる。岡山で大正

時代に老人ホームをつく

った社会事業家、戦後に点

字ブロックを開発した事

業家を取り上げ、地域福祉

に果たした役割を語り合

う。

## 第7回「慈愛と福祉」シンポ

岡山市北区の農家に生ま

れた田淵藤太郎(1876

〜1928年)は1912

(大正元)年に「報恩積善

会」を設立し、孤立した高

齢者を自宅に引き取り、老

人ホームに発展させた。

同市で旅館を経営してい

た三宅精一(1926〜82

年)は親友の失明をきつ

かけに点字ブロックを考案

し、67(昭和42)年に第1

号を市内の交差点に設置し

た。

シンポジウムでは、県立

来月27日、さん太ホール

大の井村圭壮教授が田淵の事業を中心に日本の高齢者福祉の進展を語る。

東京都青梅市にある視覚

障害者向け老人ホームの

副園長本間律子さんは点

字ブロック開発の経緯や

苦勞について話す。

午後2時開会。入場無

料。はがきに氏名、住所、

電話番号を書き、〒70

0-8580(住所不

要)、山陽放送学術文化

財団へ申し込む。ファク

ス(086-225-5

046)、メール(nc

hiran@rsk.co.jp)でも

受け付ける。今月31日締

め切り。応募多数の場合

は抽選。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。